『時 事 直 言』No.1815 2026 年 7 月 6 日国会議員号
[HP] http://chokugen.com/
[FAX] 03-3956-1313　　[mail] info@chokugen.com
[X(旧 twitter)] t_masuda2019/　[instagram] t.masuda2026
[Youtube] 増田俊男チャンネル/

時事評論家 増田俊男

「原油価格をイラン戦争前に戻した」と大見栄を切るトランプに、「ご苦労様でした」とほほ笑む習近平

アメリカとイランとの停戦暫定覚書の署名後、ホルムズ海峡でシンガポール船籍のタンカーがイラン革命防衛隊が攻撃したのを受けて米軍がイランに報復攻撃をするなど多少いざこざがあったが、アメリカの 7 月 4 日の米独立記念日と同日のイランのホメイニ最高指導者の追悼式が終わってから協議を再開することで双方合意し、トランプは期限の 60 日にこだわらないなど停戦合意に強い意志を示したことが好感され連日原油価格が下落、イラン戦争前の水準まで下がった。
戦争が始まる前の 2/27 は 72.50ドル、2/26 は 70.80ドル、2/25 は 70.90ドルで 2/24 は 70.80ドルであった。
戦争中 115ドルまで上がった BZ(北海ブレント)は 7 月 4 日現在 1 ガロン 71.0ドルから 71.80ドルであるから原油価格はトランプが自慢するように確かに戦争前に戻った。
しかしアメリカの国民が買っているのは原油ではなくガソリンである。
原油価格が急落したのにガソリン代は下がらない。
米国民は、我々は原油価格などどうでもいい、ガソリン代を下げろと叫んでいる。
7 月 4 日のカリフォルニア L.A.のガソリンスタンドの 1 ガロン価格は 5.45ドル、サンフランシスコは 5.59ドルであり、まだまだ高値圏内である。
原油価格が下がったのに原油(石油)製品の価格が下がらない主な原因は原油精製コストの高騰が続いているからである。
世界の原油精製大国は中国とアメリカである。
世界最大の原油生産国のアメリカの原油精製会社は国内産原油の精製が主であるが、中国は約半分が国内、半分が海外向けとなっている。
中国の原油精製能力は日産 2,000 万バレルで稼働率は 70-75%、アメリカは 1,700 万バレルで稼働率は 90-95%であるが、中国は戦略的に稼働率を 50%前後にまで下げ続けている。
イラン戦争前の中国の中東からの輸入量は 1,100 万バレルだから中東原油輸出量 2,000 万バレルの約 50%であった。
中東産油国の産油施設はイランの攻撃を受け、生産量はまだ攻撃前と比較すると 28%減であり、その上にホルムズ海峡が解放されてもタンカーが輸入国に到着するまでには時間がかかるから日本をはじめアメリカでも政府の緊急備蓄放出は続いている状態であり、供給は不足している。
それなのに何故原油価格は急落しているのか。
それは中東産油量 2,000 万バレルの 50%を輸入している中国の輸入量が 1,100 万バレルから 580 バレルに減少したからである。
中東原油需要が半減したから原油価格が急落したのである。
原油価格を下げたのはトランプではなく、習近平だったのである。

中国は原油輸入減で原油価格を下げ、一方輸入が減れば海外向け原油精製量も減るから海外からの原油精製需要は高まり精製代金が高騰する。
この中国の戦略の影響でアメリカでの原油精製コストも上がり、原油価格が下がってもガソリン代は下がらないのである。
中東のいくつかの国やベネズエラ、コンゴなどから相場の 15 ドルから 20 ドル安で買ってくれと安売りタンカーが中国に押し寄せている。
一方ナフサ高騰に耐えかねて、いくらでも払うから急いで精製してくれと先進国でさえ中国に殺到している。
世界一安く原油を買い、世界一高い原油精製代金を取る中国。
原油価格をイラン戦争前の価格に戻したと大見栄を切るトランプに「ご苦労様」とほほ笑む習近平。
たった 250 年の歴史のアメリカは権謀術数 5000 年の戦略国家中国にとって相手ではない！
Strategy（戦略） is mightier than the Sword.（軍事力）
戦略（中国）は武（アメリカ）より強し！

2027 年習近平は朝鮮戦争と台湾侵攻でトランプを弄（もてあそ）ぶ。
小冊子 Vol.159 で用意周到な習近平の戦略を学んで下さい。

大好評配信中！増田俊男の「インターネット目からウロコの増田塾」
いつでも繰り返し何度でも視聴可能！
皆様からのご要望にお答えし、「株式指南」を継続的に配信するコンテンツをスタートします。是非、この機会にお申し込みください。
【配信予定内容】〇損をさせない「早朝株式指南」〇本日の世界政治・経済情勢の裏（真実）
★いつでも繰り返し何度でも視聴可能。ご視聴方法：PC・スマートフォン・タブレット ※Youtube の視聴環境が必要となります。詳しいご案内、お申込みについてはマスダ U.S. リサーチジャパン株式会社（FAX：03-3956-1313、HP：http://chokugen.com/ ）まで。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、
事前にマスダ U.S.リサーチジャパン株式会社（FAX：03-3956-1313）までお知らせ下さい。